

## International Young Researchers Session の報告

主催: マリンバイオテクノロジー学会若手の会

担当: モリ テツシ (東京農工大学) 矢澤 良輔 (東京海洋大学) 前田 義昌 (東京農工大学)

招待講師: Professor Yonathan Zohar (Chair, Department of Marine Biotechnology and Director, Aquaculture Research Center, Institute of Marine and Environmental Technology, University of Maryland, USA)



本セッションは、若手の研究者および学生に向けて開催され、国際レベルで若手の会の企画参加および活動を呼びかけるセミナーであった。当日は IMBA のボードメンバーの一人である Yonathan Zohar 教授の招待講演が行われ、その後、同会場においてオープンディスカッションの形式でマリンバイオテクノロジーの若手研究者などの活躍について議論を行った。まず、若手の研究者および学生たちのモチベーションをあげるために、Zohar 先生から“Over forty years in fish reproduction and aquaculture in under forty minutes”との演題で、水産養殖分野の第一人者として取り組んだ GnRH (生殖腺刺激ホルモン放出ホルモン) の人工改変アナログ GnRHa を利用した、水産養殖対象魚種の産卵を制御する技術について発表して頂いた。この研究を始めてから 45 年近くの経歴を 40 分間といった短い時間で非常にわかりやすくそして丁寧に説明していただき、発表の後半では若手の研究者及び学生たちにも応援の言葉とアドバイスをいただいた。特に「自分自身の特徴を示すために、自分の能力をしっかりと信じて、その強い信念を貫き通すのは非常に大事」といった一言が印象深かった。なお「研究は一人ではできない」といった助言もいただき、せっかく IMBC という学会があるのだから、ここで良いつながりを築いていくのも必要、と助言していただいた。その後のオープンディスカッションでは会場の参加者に事前に配られたアンケート用紙を基に、Zohar 先生の貴重な意見も頂きながらマリンバイオテクノロジーの若手の会の必要性および活動の重要性などについて議論が行われた。その際、シニアの研究者だけではなく若手の研究者からも多くコメントを頂き、国際レベルでの若手の会の設立の重要性・必要性が見えてきた。今後、会場から頂いたアンケートの回答および意見を集計し、次回の APMBC または IMBC で国際レベルでの若手の会の活動や企画などに期待したい。

